



人間文化研究機構 ネットワーク型基幹研究プロジェクト
地域研究推進事業 南アジア地域研究



ISSN 2432-437X

FINDAS

The Center for South Asian Studies,
Tokyo University of Foreign Studies
東京外国語大学 南アジア研究センター

東京外国語大学南アジア研究リサーチペーパー 1

デリーにおける最近の読書傾向について

松木園久子

On a Trend of Reading in Today's Delhi

Hisako MATSUKIZONO



東京外国語大学拠点 南アジア研究センター

Center for South Asian Studies, Tokyo University of Foreign Studies (FINDAS)

研究テーマ「南アジアにおける文学・社会運動・ジェンダー」

Literature, Social Movements, and Gender Issues in South Asia

本拠点は、現代南アジアの構造変動に関する理解を、重層化・多元化・輻輳化する社会運動の歴史・政治・社会学的分析と文学分析、およびジェンダー視角を軸として深めることを目的とする。さらに、対象研究領域に関して、すでに東京外国語大学が所蔵する文献・史料群を充実させることを系統的、意識的に追及し、国内における文献拠点となることをめざす。

本拠点の第1期（2010～2014年度）の研究活動を通じて、経済自由化・グローバル化にともなう現代インドにおける構造変動が、個人、家族、コミュニティ・レベルの人々の意識、ジェンダー関係に劇的な変容をもたらしたこと、アイデンティティの複合性と可変性がさらに加速化していること、ならびに、インドを特徴づけている活性化された民主政治が、それまで社会的周縁に位置づけられてきた諸集団の積極的な異議申し立てなしには理解できないという事実が明らかになった。第2期（2015～2019年度）では、社会運動の諸相をとくに、人的紐帯の変化、および、それらを支える情動や感性の側面に焦点をあてること、対象地域をさらに、南アジア地域に拡大するとともに、中国・東南アジア・イスラーム地域などの他地域との比較研究を意識的に組織化し、理論化を主導することに重点的に取り組む。

東京外国語大学は、ウルドゥー語・ヒンディー語・ベンガル語を中心に南アジアの諸言語の教育、および南アジア地域研究に関して明治期以来の長い歴史を有し、世界的に活躍する高度職業人ならびに日本における南アジア研究の中核を担う研究者を輩出してきた実績がある。また、国内有数の南アジア諸語文献・南アジア関連の文献・史料の所蔵を誇る。さらには、海外の南アジア研究者との学術交流にも長い伝統がある。こうした特長を最大限に生かしつつ、本拠点はさらに国内外の南アジア研究者のネットワークのハブとして共同研究を組織するとともに、若手研究者の育成を重点的に行い、南アジア地域研究のレベルを明示的に高めることをめざす。

研究ユニット1「輻輳する社会運動における実践と理論」

研究ユニット2「社会変動と文学」

FINDAS リサーチペーパーシリーズ 1

デリーにおける最近の読書傾向について

松 木 園 久 子

デリーにおける最近の読書傾向について *

松木園 久子 **

On a Trend of Reading in Today's Delhi*

Hisako MATSUKIZONO**

Abstract

Today, there are increasing numbers of Indian English writers whose novels sell millions of copies, which is certainly a new trend. In order to understand the situation on readers' side, I conducted a survey in Delhi in 2014 and 2015, using a questionnaire. Most of the subjects were graduate and undergraduate students in their twenties. In this paper, I intend to examine their reading habits, including buying books, from various aspects; How many books do they read or buy? In which language do they read? Who is their favorite writer? and so on. According to the results of the questionnaire, English is regarded as the dominant language especially in reading and writing. It turned out that about forty percent of them read less than three books and about fifty percent of them buy less than three books in a year. In spite of this low number, about half of them still buy Indian English literary works and they named Indian English writers as their favorites. I will closely analyze this new trend citing data from the survey. In the era of the Internet and Social Media, the relationships of writer and reader will be changed.

はじめに

現在インドでは、英語作家チェータン・バガト(Chetan Bhagat)が前代未聞の売り上げを記録している¹。すなわち、これまで英語の小説を読まなかったような人々までもが彼の作

* 小稿は、2015年7月4日に開催された FINDAS 第2回若手研究者セミナー「時代を映す南アジア文学—近代女性作家の作品から現代の読書傾向まで」で行った発表「デリーにおける最近の読書傾向について」に加筆したものです。調査に回答、協力してくださった方々に、この場を借りてお礼申し上げます。アンケートの内容は、難波美和子先生を中心とする科研の研究会で検討しました。また FINDAS セミナーにおいても参加者の皆さんから大変有益な情報と助言をいただいたことをお礼申し上げます。

** 大阪大学外国語学部 非常勤講師

¹ デビュー以来バガトの作品を発行してきた出版社 Rupa & Company から筆者が聞いた話では、累計で1,000万部以上売れているとのことだった(2015年2月現在)。

品を買っているのだ[Sadana 2012: 176]。バガトを筆頭に、何十万、何百万部という単位で作品を売り上げる英語小説家が続々と現れている。たしかに彼らの登場以前から英語小説にはミリオンセラー作品も存在したが、新旧両者には大きな違いがあるようだ。かつてはイギリスやアメリカなどで文学賞を受賞したり、ヒットしてから、後発的にインドでも売れるパターンが目立ったが、最近では重厚な文学作品というより娯楽作品と呼ぶべき軽い読みものがインド国内でミドル・クラスの若者を中心に流行しているのだ。この新たな潮流は決して些細なものではない。英語の読者層を開拓したことに加え、彼らの作品は、次々とインドの在地諸語にも翻訳されており、英語文学のみならずインドの文学全体に影響を及ぼす可能性が考えられるからだ。では実際に誰がそれらを買って、読んでいるのだろうか。そして彼らはどのような感想を持っているのだろうか。このような受容者側の実態を明らかにすることは容易ではない。しかしその一端にでも触れるべく、2014年および2015年に筆者はデリーでアンケート調査を行った。小稿ではこのアンケートの集計結果を報告するとともに調査の背景について補足し、そのうえでデリーにおける最近の読書傾向を考察したい。

調査の概要

それぞれの調査の概要は以下の通りである。

第1回 期間：2014年3月～4月

実施場所： デリー大学、ジャワハルラール・ネルー大学、国際交流基金ニューデリー日本文化センター、デリー公共図書館など

集計数： 合計163名

資金： 人間文化研究機構プログラム 現代インド地域研究

第2回 期間： 2015年2月～4月

実施場所： デリー大学、ジャワハルラール・ネルー大学、デリー公共図書館など

集計数： 合計108名

資金： 科研費 挑戦的萌芽研究「現代インドの英語文学とグローバル化する英語」(研究代表者：難波美和子熊本県立大学准教授)

2回とも、回答者は主に上の各機関で学ぶ学生であり、そこに勤務している筆者の知人を介して、回答を依頼した。アンケート用紙を配布した後、その場であるいは後日回収した。一部は電子メールを用いて送受した。アンケートの書式は巻末に掲載する。

アンケート調査の結果

アンケートの大まかな構成は、回答者(職業や学歴)、読書(言語や読書量)、入手(方法やジャンル、購入量)にかんする選択回答形式と、好きな作家と言語および文学についての自由回答形式からなる。以降ではこれらを、A. 回答者の情報、B. 読書と言語、C. 本の入手、D. 読書の趣向の4部分に分け、1～11の質問文とそれぞれの回答をあげる。あわせて調査の結果に影響したと考えられる要因も補足する。以上を踏まえて、現在の読書のあり方について考察していく。

A. 回答者の情報

表 1 実施場所

	2014	2015
University of Delhi	70	23
Jawaharlal Nehru University	18	25
Delhi Public Library	11	60
Japan Foundation (国際交流基金)	43	0
その他	21	0
合計	163	108

表 2 回答者の性別

	2014	2015
男性	79	72
女性	83	35
無回答	1	1
合計	163	108

表 3 回答者の年齢

	2014	2015
16-	3	20
20-24	74	55
25-29	41	15
30-	25	6
40-	10	5
50-	1	0
60-	5	4
無回答	4	3
合計	163	108

アンケートの実施場所は教育機関が中心であり、回答者も大半が学生であった。このため、全体にたいする10～20代の割合は2014年で約72%、2015年で約83%と高い数値となった。男女比は、2014年にはほとんど差はないものの、2015年に男性が女性のほぼ2倍となったのはデリー公共図書館での回答者がほとんど男性だったためだが、結果にさしたる影響はなかったと思われる。

表 4 Q1. What is your Occupation.

	2014	2015
Student	109	92
Salaried	35	8
Self Employed	12	3
Retired	2	4
Housewife	5	0
その他	4	2
無回答	1	1
合計*	168	110

*は重複回答あり(以下同じ)

表 5 Q2. What is your Educational Qualification.

	2014	2015
10th or below	1	2
10+2 or below	3	3
Undergraduate	33	28
Graduate	55	53
Post graduate +	69	22
無回答	2	0
合計	163	108

「職業」からも、学生が大半であることが確認できる。また、「教育」については、大多数が学部生から大学院修了までに含まれ、学歴の高い回答者が中心となった。

表 6 Q3. What is your Major. Please Mark all that apply.

		2014	2015
Humanities (文系)	Language	46	14
	Literature	29	9
	Sociology	13	22
	Law	4	4
	International relations	17	6
	Commerce/ Economics/ Finance	30	28
	Education/ Liberal arts	5	5
	合計*	144	88
Natural Sciences (理系)	Science/ Engineering/ Agriculture	30	25
	Information science	4	3
	Medical/ Pharmacology	4	2
	合計*	38	30
その他	無回答	5	3
	その他 (Design Art, Mass Communication 他)	20	5

専門分野は複数回答を含むが、文系科目へのチェック数が理系科目のおよそ3~4倍になっている。なかでも言語、文学と商業・経済が特に多いが、これは調査協力者の専門に係している。

B. 読書と言語

読書については、言語と読書量(タイトル数)について質問した。

表7 Q4. In **Which Language** do you read and write? Please Specify Priority in () as 1st, 2nd, 3rd.

(2014年のアンケートの質問文は **What is your Literary Language**. Please Specify Priority in ().)

		2014	2015
Hindi	YES (✓ or ○)	58	27
	1st	13	14
	2nd	13	29
	3rd	6	2
	合計*	90	72
English	YES (✓ or ○)	101	54
	1st	21	35
	2nd	14	15
	3rd	0	0
	合計*	136	104

		2014		2015	
Indian Languages	Bengali	11	Punjabi	3	
	Urdu	5			
	Marathi	3	Urdu	2	
	Tamil	3			
	Kannada	2	Bengali	1	
	Malayalam	2			
	Manipuri	2	Rajasthani (Marwari)	1	
	Assamese	1			
	Odiya	1	Sanskrit	1	
	Punjabi	1			
	Sanskrit	1	判読不可能 (Arunachal Pradesh)	1	
	Telugu	1			
	合計*	33	合計*	9	
Foreign Languages	Japanese	12	Japanese	13	
	Korean	8			
	Spanish	3			
	Arabic	2	Spanish	1	
	German	2			
	その他	7			
	合計*	34			合計*

「読み書きに用いる言語」にたいする回答欄は、「ヒンディー語」、「英語」、「その他(自由記述)」の3択で、あわせて優先順位も問うたが、回答のしかたはさまざまだった。そこで集計方針として、✓や○などと記されたものはYESに、順位がつけられた場合は順位ごとに算出した²。「その他」に記入された言語は、集計時に筆者が「インド在地語」と「外国語」に分類した。

結果から明白なのは、英語が使用される割合が断然高いことである。すべての順位を含めると、回答者全体の83%(2014年)および96%(2015年)にまでおよぶ。一方ヒンディー語は、調査地デリーの在地語であるし、三言語定則などにより全国的に触れる機会が高いものと予想されたが、55%(2014年)および67%(2015年)にとどまった。

² 質問7および8においても同じ集計方法をとった。

表 8 1人が用いる言語数とその内訳

		2014	2015
使用言語 および 回答者数	1 言語		
	ヒンディー語のみ	16	4
	英語のみ	53	29
	カンナダ語のみ	1	0
	小計	70	33
	2 言語		
	ヒンディー語+英語	42	54
	英語+インド在地語	10	1
	英語+外国語	4	6
	小計	56	61
	3 言語以上		
	ヒンディー語を含む*	32	14
	英語を含む*	35	14
	小計	35	14
	無回答・不明	2	0
	合計	163	108

さらに1人が用いる言語数という点から集計した。1言語のみを回答した割合は43%(2014年)、31%(2015年)と半数に満たない。つまり、複数の言語で読み書きすることは珍しくないといえるだろう。言語の内訳は「ヒンディー語のみ」が23%(2014年)、12%(2015年)、「英語のみ」が76%(2014年)、88%(2015年)となっており、ここでも圧倒的に英語が優勢である。次に、2言語を回答した割合は34%(2014年)、57%(2015年)である。その組み合わせの大半が「ヒンディー語と英語」で、2言語と回答したうち75%(2014年)、89%(2015年)を占める。優先順位が記入された回答はわずかだったが、「1位ヒンディー語+2位英語」:「1位英語+2位ヒンディー語」の比率を算出すると、1:1.3(2014年)、1:3.1(2015年)であり、やはり英語が優位な傾向がうかがえる。これ以外の組み合わせは、「英語とインド在地語」または「英語と外国語」といったもので、「英語」が常に含まれていた。さらに3言語以上の回答者数は22%(2014年)、13%(2015年)であり、ほぼ全ての構成が「ヒンディー語+英語」に「インド在地語」または「外国語」が加わるかたちだった。

英語使用率の高さは、回答者の学歴の高さと関係しているだろう。ミドル・クラスとさらに下のクラスでも英語志向が強いとされ [Sadana 2012: 5]、英語の使用層は今後さらに拡大すると考えられる。一方インド在地諸語にかんしては、出身地や家族の使用する言語なども関係するため、アンケートの実施場所や対象者によって異なる言語の使用や、比重も変化することが予想される。また、この質問は「読み書き」に限定しているが、会話の場面ではヒンディー語を含むインドの在地諸語が使われる頻度がより高くなるものと推測される。な

お、今回の調査で外国語のなかでも日本語が目立っているのは、回答者に日本語学習者が含まれていたことを補足しておく。

表 9 Q5. How Many Books did you Read in the Past One Year. **Other than Textbooks.**

	2014	2015
0 title	13	10
about 1-3	58	32
3-	71	52
4-9	9	5
10-19	8	1
20-29	2	2
30-	1	2
無回答	1	4
合計	163	108

次の質問「過去1年間に読んだ本のタイトル数」には、教科書を含まないこととし、選択回答の記入欄は「0」、「およそ1-3」、「3より多い(およそのタイトル数を記入)」の3つを設置した。「3より多い」で具体的なタイトル数が記入されている場合は、10タイトルごとに回答数を取りまとめた。両年とも3タイトル以下の割合は44%(2014年)、39%(2015年)と4割前後を占めている。インドでも活字離れが指摘されているが、「教科書以外に時間をかけられない」という実情が質問11の回答にみられた。これもまた、読書環境の一例を表しており、後ほど考察することにした。

C. 本の入手

次に、本を入手する場面をさまざまな角度から質問した。

表 10 Q6. How Many Books did you Buy in the Past One Year. **Other than Textbooks.**

	2014	2015
0	25	22
about 1-3	66	30
3-	51	45
4-9	8	6
10-19	4	2
20-29	4	1
30-	2	0
無回答	3	2
合計	163	108

まず過去1年間に購入した冊数について、ここでも教科書を含まないこととし、「0」、「およそ1-3」、「3より多い(およそのタイトル数を記入)」の3択からの回答とした。3冊以下の割合は56%(2014年)、48%(2015年)とおおよそ半数を占めており、そのうち1冊も買わなかった割合は15%(2014年)、20%(2015年)となっている。

表 11 Q7. How do you usually Obtain Books Other than Textbooks. Please Specify Priority in ().

		2014	2015
Buy	YES (✓ or ○)	81	40
	1st	15	15
	2nd	9	7
	3rd	0	7
	合計*	105	69
Borrow from Library	YES (✓ or ○)	58	42
	1st	6	10
	2nd	8	10
	3rd	5	8
	合計*	77	70
Borrow from Someone	YES (✓ or ○)	37	13
	1st	5	3
	2nd	8	12
	3rd	8	10
	合計*	58	38
その他		12	7
無回答		4	0

次に「本の入手方法」(複数回答)をみると、2014年、2015年とも最も多い回答は「購入」で、両年ともに64%である。2015年では「図書館で借りる」人数が「購入する」人数とほぼ同数であり、2014年と比べて大きい。図書館での回答者が多く、その大半が「図書館で借りる」と回答したことによる。また、アンケート実施中にある大学教授から聞いた話では、読書家のなかには貸本屋を利用する人もいるらしい。

表 12 Q8. Where do you usually Buy Books Other than Textbooks. Please Specify Priority in ().

		2014	2015
Bookstore	YES (✓ or ○)	97	18
	1st	14	5
	2nd	5	3
	3rd	1	0
	合計*	117	26
Used book store	YES (✓ or ○)	17	14
	1st	3	3
	2nd	7	10
	3rd	2	5
	合計*	29	32
Online	YES (✓ or ○)	45	24
	1st	5	5
	2nd	8	10
	3rd	2	8
	合計*	60	47
その他		5	10
無回答		5	4

「どこで購入するか」(複数回答)については、2014年から2015年にかけて変化がみられる。「書店」の割合が72%から24%と3分の1にまで減少し、他方「古本屋」は18%から30%へ、「オンライン」も37%から44%に増加している。オンライン店舗ではフリックカート(flipkart)やアマゾン(amazon)のほか、スナップディール(snapdeal)の名前があがっていた。

表 13 Q9. What Kind of Books do you Buy. Please Mark All that Apply.

文学

Literature		2014	2015
Indian Writing	Vernacular	37	19
	English	86	56
Foreign Writing	(translated into) Indian vernacular	12	5
	(translated into) English	56	30
	original language	36	15

文学以外

	2014	2015
Comics & Graphic Novels	37	19
Business & Economics	44	24
Society & Social Sciences	31	23
Language & Linguistics	34	16
Health, Family & Personal Development	15	15
Textbooks & Study Aids	33	25
Magazines	61	41
Computing, Internet & Digital Media	18	12
Law	4	9
Religion & Spirituality	24	19
Crafts, Home & Lifestyle	12	6
Travel	38	12
Sciences, Technology & Medicine	14	18
Politics	30	21
History	50	32
Sports	15	15
その他	14	5

「購入する本の種類」(複数回答)については、回答欄をまず「文学」と「文学以外」に大別した。さらに「文学」については、「インド文学」と「外国文学」と項目を分け、「言語」も特定した。ここでは「英語」で書かれた文学が、他の言語を大きく引き離す結果になった。

たとえば「インド文学」の括りで、言語を「在地語」と「英語」で比較すると、それぞれ全体の23%と53%(2014年)、18%と52%(2015年)に当たる。つまり、英語は在地語の2倍以上に相当し、実に半数以上の人々がインドの英語文学作品を購入していることが分かる。質問6において、約半数の人が1年間に購入した本が3冊以下だったこととあわせて考えれ

ば、かなりの人気だといっていいただろう。また「外国文学」でも、読む言語で対比すると「英語」の率が高い。これを「インドの在地語」：「英語」：「原語」で比較した場合、7%：34%：22%(2014年)、5%：28%：14%(2014年)となる。とはいえ、この3者は対等な条件のもとにあるわけではなく、インドにおいては「外国文学」は「英語訳」で読むのが合理的だといえる。そもそも「外国文学」が「インドの在地語」に訳されている数は、「英語訳」とは比較にならないほど少ない。また「原語」で読むためには、その言語を修得しているなど限られた条件が想定されるからだ。このように「英語訳」が圧倒的に有利な背景があり、また実際に選ばれているという状況がここで浮き彫りになった。

ちなみに「文学以外」のジャンル³で回答が多かった上位3位をあげてみると、2014年では「雑誌」37%、「歴史」31%、「ビジネス・経済」27%で、2015年では「雑誌」38%、「歴史」30%、「教科書・学習参考書」23%の人々がそれぞれ回答している。

³ ここでの選択肢は、2014年3月3日現在アマゾン(インド)で使用されていたジャンルを参考にした。

D. 読書の趣向

表 14 Q10. Who is your Favorite Writer.

2014			
Rank	Name	Language	Number of people
1	Chetan Bhagat	English 39, Hindi 2, Hindi/English 1, 無回答 1	44
2	Premchand	Hindi 19, Urdu 1, 無回答 1	21
3	Rabindranath Tagore	Bengali 6, English 4, Hindi 2, 無回答 1	13
4	William Shakespeare	English のみ	11
5	Haruki Murakami	English 5, Japanese 2, Japanese/English 1	8
6	Amitav Ghosh	English 5, 無回答 1	6
	Charles Dickens	English のみ	6
	Dan Brown	English のみ	6
	Durjoy Datta	English のみ	6
	Paulo Coelho	English のみ	6
	Ravinder Singh	English 5, 無回答 1	6
12	Jane Austen	English のみ	5
	Soseki Natsume	English 3, Japanese 2	5
14	J.K. Rowling	English のみ	4
	Ruskin Bond	English のみ	4
	Vikram Seth	English のみ	4
17	Agatha Christie	English のみ	3
	Amish	English, 2 Hindi 1	3
	Anton Chekhov	English 2, Russian 1	3
	Arundhati Roy	English のみ	3
	Ayn Rand	English のみ	3
	Gabriel Garcia Marquez	Spanish 1, English 1, Spanish/English 1	3
	Khaled Hosseini	English のみ	3

2015			
Rank	Name	Language	Number of people
1	Chetan Bhagat	English 25, 無回答 1	26
2	Premchand	Hindi 12, Hindi/English 1	13
3	Dan Brown	English 4, 無回答 1	5
	Jane Austen	English のみ	5
5	Shiv Khera	English のみ	4
	Sidney Sheldon	English のみ	4
	William Shakespeare	English のみ	4
8	Durjoy Datta	English のみ	3
	Khaled Hosseini	English のみ	3
	Khushwant Singh	English のみ	3
	R. S. Aggarwal	English のみ	3
12	Amish	English のみ	2
	Irfan Habib	English のみ	2
	L. P. Sharma	English のみ	2
	Mahadevi Verma	Hindi のみ	2
	Paulo Coelho	English のみ	2
	Ravinder Singh	English のみ	2
	Ruskin Bond	English のみ	2
	Sachin Garg	English のみ	2
	Stephenie Meyer	English のみ	2

「好きな作家と言語」という質問では自由回答形式で、具体的な作家名と何語で読むかを答えてもらう意図であった。しかし質問文が不十分だったためか、回答の仕方にばらつきがあり、次のような集計方針をとることとした。まず作家1名分の欄に複数記入されている場合、個人が特定できる限り、全て計上した。また記入された作家の名前が一般的な表記と異なる場合は、ある程度推測をして分類した⁴。ただし「フランスの哲学者」といった個人が特定できない回答は除いた⁵。アンケート用紙1枚につき3名分の作家欄を設けたので、回答者数をもとに単純計算すれば、2014年では489人、2015年では324人の作家があがることになるが、上に述べた理由からそれぞれの年で310人と155人を有効回答とした。

結果として、「好きな作家」は両年とも首位に「チェータン・バガト」、2位が「プレームチャンド」となった。しかしながら回答者数の差は約2倍と、チェータン・バガトが群を抜いている。バガトを「好きな作家」と回答した人数は、実に全回答者数の27%(2014年)およ

⁴ たとえば、「Munshi Prem chand」という回答は「Premchand」に、「Shakespere」は「Shakespeare」に含んだ。

⁵ 集計から除いた回答数は、19個(2014年)および33個(2015年)。

び 24%(2015 年)にのぼる。さらに 10~20 代に絞れば、32%(2014 年)および 30%(2015 年)にまで上昇する。「若者の偶像」と呼ばれるバガトの人気ぶりを表す数値といえるだろう。その他の作家をみると、シェイクスピアやジェイン・オースティンといったイギリスの権威ある作家や、ラスキン・ボンドやパウロ・コエリョも安定した人気を保っているようだ。ここで注目したいのは、ドゥルジョイ・ダッタ(Durjoy Datta)、アミーシュ(Amish)、ラビンダル・シング(Ravinder Singh)、サチン・ガルグ(Sachin Garg)などの名前があがっていることである。いずれも 2000 年以降にデビューし、あっという間にベストセラーの常連となった英語作家である。書店では彼らのペーパーバックが平積みになっている光景も珍しいものではない。冒頭で述べたように、バガトら若い作家たちの台頭を裏付ける結果とっていいだろう。一方ではいわゆる「文学」の範疇に入らない「作家」の名前もみられる。たとえば R. S. アガルワール(R. S. Aggarwal)は、受験のための参考書を多数執筆している人物である。究極的には「作家」の定義は個人の判断によるが、2015 年に回答した 3 人はいずれも公共図書館で勉強中の学生だったことから、彼らの読むものなかでは最も親しんでいる「作家」なのかもしれない。

言語にかんしては、一見して英語が圧倒的に優勢であることは明白である。しかしここでも回答のしかたにばらつきがあったため⁶、記入された言語名のまま、回答者数もあわせて記すこととした。しかしこのばらつき自体に、「何語で読むか」というインドの文学を考える際に不可避の問題が含まれているともいえる。たとえば、「英語」と「ベンガル語」で執筆したタゴールの場合である。「ヒンディー語」と回答した人はおそらくヒンディー語訳を読んでいるのだろうが、「英語」または「ベンガル語」と回答した人の詳細は、このアンケートでは知ることはできない。このような状況を明らかにするには、よりきめ細かい調査が必要とされる。さらに、わずかだが、チェータン・バガトを「ヒンディー語」で読んでいた回答者がいることは注目に値する。というのもバガトは、ヒンディー語読者によって「多数者すなわち本当のインド(the real India)」に到達するチャンスが得られるとして、彼らの存在を強く意識しているからだ[Bhagat 2012: xix]。小説のヒンディー語訳は別人の手によるものだが、彼自身もヒンディー語で新聞のコラムを執筆している。彼の仕事がヒンディー語文学に及ぼす影響を注視することは、インド文学全体の流れをとらえるうえでも有益となるだろう。

最後に自由記述欄から、いくつか代表的なコメントをとりあげたい。質問 11 は **Please Describe Freely. (your experiences and tastes etc. concerning language and literature)**

「言語と文学にかんして、経験や趣向など、自由に書いてください」という項目だったが、これにたいして数値には表れない、非常に興味深い回答が得られた。そこから各自の置かれた環境や、感情的な側面が垣間見えてくるのだ。

この項目で多くみられた一般的な回答は、「文学は社会や文化を理解するために役立つもの」といった文学観や「子どもの頃から英文学に親しんできた」という読書経験、あるいは好きなジャンルや作家などの趣向を示すものだった。

⁶ たとえば、「チェーホフ」を「ロシア語」と回答している人物は、「読み書きに用いる言語」に「ヒンディー語」と「英語」のみをあげているため、おそらく「ロシア語」では読んではいないことになるだろう。

次に印象的なコメントをいくつか取り上げたい。質問 10 の「好きな作家」としてチェータン・バガトをあげた回答者のコメントを比較してみよう。最初の回答者は、娯楽としての読書を楽しんでいると思われる。

例 1. 男性、19 才、学生、専門分野：歴史、好きな作家：Chetan Bhagat (English)、Shiv Khara (English)、Amish Tripathi (English)

「私は小説やスポーツ、雑誌など、人気のある本を読むのが好きです。インド人が書く小説を読むのに夢中です」

同様にバガトを「好きな作家」にあげていても、次の回答者は全面的に肯定しているわけではない。そのあたりの微妙な感覚がコメントから伝わってくる。

例 2. 男性、21 才、学生、専門分野：科学・工学・農学、好きな作家：Chetan Bhagat (English)

「あまり hi-fi⁷でない英語の本を読むほうが好きです。なのでチェータン・バガトの本を読むのも、普通の若者にかんするものだから読んでいただけです。A. P. J. アブドゥル・カラーム⁸の自伝を読むのも好きです」

また一方で、バガトに限らず、読書をしないという回答者からもコメントが得られた。彼の状況もまた、現在のインドの一側面として軽視できないものだ。

例 3. 男性、23 才、学生、専門分野：科学・工学・農学、好きな作家：無回答

「言語や文学の本は時間がないので読みません。私は学生で、教科書の勉強をしなければなりませんから」

実際に彼は過去 1 年間に読んだ本も購入した本も「0」だった。「教科書以外の本を読まない」という回答者は他にもいたが、彼らは図書館で受験勉強中にアンケートに協力してくれた学生だった。彼らには読まれていないが、実は同じ受験の厳しさを体験し、彼らの世界を作品に描いて人気を博しているのが、バガトなのである。

また、個人的な理由よりも、文学に触れる環境が不十分だという指摘もあった。

例 4. 男性、44 才、サラリーマン、専門分野：医学・薬学、好きな作家：Shiv Kapur (English)

「図書館でよい文学書を見つけるのは困難です。ここでも図書館はごくわずかしがありません。より深めるためには、有名な作家や文学にかんする本を備えた図書館があることが重要です」

⁷ インドの若者の間では「いかした」という意味に使われているようである。動詞としても使われ、チェータン・バガトの作品のなかにもしばしばみられる表現である。

⁸ A. P. J. Abdul Kalam。インドの第 11 代大統領(2002-2007)。

アンケートの結果からは英語で書かれた文学の優勢が明らかとなったが、必ずしも数値がそのまま愛着の度合いを表すわけではないようである。たとえば次の例をみてみよう。

例 5. 女性、21 才、学生、専門分野：文学、好きな作家：Agatha Christie (English)、
Ruskin Bond (English)

「西洋文学を英語で読んで育ちましたが、大学でのコースでインドや第三世界の文学に触れました。今では西洋の文学よりもこちらのほうが好きです」

さらに、英文学に親しみながらも、ヒンディー語での読書を望んでいることを明かす回答者もいた。その状況を悲しい(sad)と感じる気持ちは、数値から読み取ることができないものだ。彼女自身は「読み書きに用いる言語」として「英語」のみを選択している。

例 6. 女性、27 才、サラリーマン、専門分野：商業・経済、好きな作家：P. G. Wodehouse
(English)、Salman Rushdie (English)、Alexander McCall Smith (English)

「ヒンディー語が母語ですが、最近ではヒンディー語の本を読む機会がほとんどありません。これにはいくつか理由があります。出版業界が主として英語の本を売り出しているの、現在ヒンディー語でよい作家や書物を知らないこと、仲間うちのディスカッションやソーシャル・メディア上のおすすめ作品も英語のものばかりだということ、学校では教科書が全て英語だったために私自身がヒンディー語よりも英語の方が楽に読めるということなどです。でもこれは悲しい状況です」

ここで再び言語選択の複雑さが浮かび上がる。文学の生産過程における言語の問題に人類学的手法でアプローチしたラシュミ・サーダナーは、作家や文学研究者、出版業者やさらには舗道上の販売者にたいする聞き取り調査を取り入れた、示唆に富む研究を行った。彼女は英語およびインド在地語を二項対立的な構図でとらえることの限界を指摘し、両者の相互作用を多角的に検討している[Sadana 2012]。今回のアンケートにおいても、回答者の大半が高学歴であったにせよ、読み書きに複数の言語が用いられている状況が明らかになった。集計の結果としては英語が優勢だったが、例 6 のコメントのように、必ずしも数値が回答者の思いを全て反映しているわけではないことは考慮する必要があるだろう。個々のコメントを通して、数値から推し量ることができない、読者の心理や彼らを取り巻く状況がみえてきた。「読む」ことが必ずしも愛好していることを意味するわけではない。また、「読まない」背景にも、読みたくないという意志、あるいは読めない環境や立場、さらには読むべきものが分からない、といったさまざまな理由がある。そしてその理由はひとつとも限らないのだ。読者の実態は実に様々で、しかも変化し得る。数値化により客観的に状況を把握するとともに、その時々の人々の思いを知ることも、文学の流れをつかむためには不可欠であろう。アンケートではより意図が伝わりやすい質問文に改め、より多くのデータを回収することを今後の課題としたい。

おわりに

以上、現在のデリーにおける20代の高学歴者を中心に、アンケートという手段によって読書のさまざまな側面を調査し、分析を行った。その結果、読み書きにかんして圧倒的多数が英語を用いており、購入する文学作品と好きな作家の言語においても英語の優勢が明白となった。そのような状況は以前から漠然と、あるいは断片的に知られていたが、今回客観的な数値をもって示すことができたといえるだろう。すなわち、過去1年間において、4割もの人が3タイトル以下しか読まず、半数の人が3冊以下しか買っていないことが明らかになり、このように読書にたいして積極的とはいえない状況のなかでも、「好きな作家」として最近の英語作家の名前があがり、インドの英語文学を買う人々が全体の半数以上にものぼったのだ。

さらに今日的な要素として忘れてはならないのは、インターネットである。オンライン書店では大幅な値引きが日常的に行われ、バガトのような作家が新作の発表・宣伝にソーシャル・メディアや書店のサイトを活用し、販売促進の手段となっている。またブログの人气がデビューのきっかけとなった作家も登場している。発信するのは作家や出版社のみならず、読者の側からも作品にたいする感想などを自由に投稿できる状況だ。とくに文学が巨大な市場を得た現在、受容者の声はますます重要性となるだろう。かつてない双方向性を備えたインターネットの世界は、生産から消費、フィードバックに至るまで、文学の不可欠な場のひとつであるにちがいない。今後もさまざまな側面から、インドの読書傾向を追跡していきたい。

Questionnaire

Dear Sir/Madam

I am a researcher at Osaka University, Japan and presently conducting a study on "relationships between language and literature in India". I request you to kindly fill the questionnaire below. I assure you that the data generated shall be kept confidential.

Gender : <input type="checkbox"/> M <input type="checkbox"/> F	Age : _____ years old
--	-----------------------

1. What is your Occupation.

<input type="checkbox"/> Student	<input type="checkbox"/> Salaried	<input type="checkbox"/> Self Employed	<input type="checkbox"/> Retired
<input type="checkbox"/> Housewife	<input type="checkbox"/> Others (please specify) _____		

2. What is your Educational Qualification.

<input type="checkbox"/> 10 th or below	<input type="checkbox"/> 10+2 or below	<input type="checkbox"/> Undergraduate	<input type="checkbox"/> Graduate
<input type="checkbox"/> Post Graduate and above		<input type="checkbox"/> Others (please specify) _____	

3. What is your Major. Please Mark all that apply.

<input type="checkbox"/> Language	<input type="checkbox"/> Science/ Engineering/ Agriculture	<input type="checkbox"/> International relations
<input type="checkbox"/> Literature	<input type="checkbox"/> Information science	<input type="checkbox"/> Commerce/ Economics/ Finance
<input type="checkbox"/> Sociology	<input type="checkbox"/> Medical/ Pharmacology	<input type="checkbox"/> Education/ Liberal arts
<input type="checkbox"/> Law	<input type="checkbox"/> Others (please specify) _____	

4. In **Which Language** do you read and write? Please Specify Priority in () as 1st, 2nd, 3rd.

	Others :	
() Hindi	() English	() _____ () _____
		() _____ () _____

5. How Many Books did you Read in the Past One Year. **Other than Textbooks.**

<input type="checkbox"/> none	<input type="checkbox"/> about 1 to 3	<input type="checkbox"/> more than 3: (about) _____ titles
-------------------------------	---------------------------------------	--

6. How Many Books did you Buy in the Past One Year. **Other than Textbooks.**

<input type="checkbox"/> none	<input type="checkbox"/> about 1 to 3	<input type="checkbox"/> more than 3 (about) _____ titles
-------------------------------	---------------------------------------	---

7. How do you usually Obtain Books **Other than Textbooks**. Please Specify Priority in ().

- () buy () borrow from library () borrow from someone
 () Others (please specify) _____

8. Where do you usually Buy Books **Other than Textbooks**. Please Specify Priority in ().

- () bookstore () used book store
 () online (please name website) _____
 () Others (please specify) _____

9. What Kind of Books do you Buy. Please Mark All that Apply.

Literature		
<input type="checkbox"/> Indian Writing (vernacular)	<input type="checkbox"/> Indian Writing (English)	
<input type="checkbox"/> Foreign Writing (translated into Indian vernacular)	<input type="checkbox"/> Foreign Writing (translated into English)	<input type="checkbox"/> Foreign Writing (original)
<input type="checkbox"/> Comics & Graphic Novels	<input type="checkbox"/> Magazines	<input type="checkbox"/> Travel
<input type="checkbox"/> Business & Economics	<input type="checkbox"/> Computing, Internet & Digital Media	<input type="checkbox"/> Sciences, Technology & Medicine
<input type="checkbox"/> Society & Social Sciences	<input type="checkbox"/> Law	<input type="checkbox"/> Politics
<input type="checkbox"/> Language & Linguistics	<input type="checkbox"/> Religion & Spirituality	<input type="checkbox"/> History
<input type="checkbox"/> Health, Family & Personal Development	<input type="checkbox"/> Crafts, Home & Lifestyle	<input type="checkbox"/> Sports
<input type="checkbox"/> Textbooks & Study Aids	<input type="checkbox"/> Others (please specify)	_____

10. Who is your Favorite Writer.

1. name : _____ language: _____

2. name : _____ language: _____

3. name : _____ language: _____

11. Please Describe Freely. (your experiences and tastes etc. concerning language and literature)

If you allow me to make contact with you about this questionnaire, please write down.

Name : _____ E-mail Address : _____

Thanks for your kind co-operation.

Hisako Matsukizono Ph. D.
 (fwnw0130@nifty.com)

参考文献

Bhagat, Chetan, 2012, *What Young India Wants*, New Delhi: Rupa.

Sadana, Rashmi, 2012, *English Heart, Hindi Heartland: The Political Life of Literature in India*, Berkely: University of California Press.

松木園久子、2016、「ヒンディー語である理由—チェータン・バガトの仕事から」『印度民俗研究』、第15号、127-150頁。

FINDAS リサーチペーパーシリーズは、人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト地域研究推進事業の出版物です。

人間文化研究機構 (NIHU) <http://www.nihu.jp/ja/research/suishin#network-chiiki>

NIHU プログラム 南アジア地域研究 (INDAS) <http://www.indas.asafas.kyoto-u.ac.jp/>

東京外国語大学拠点 南アジア研究センター (FINDAS) <http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/>

FINDAS リサーチペーパーシリーズ 1

「デリーにおける最近の読書傾向について」

松木園 久子

2016 年 10 月 21 日発行 非売品

発行 東京外国語大学 南アジア研究センター

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学 研究講義棟 700 号室 南アジア研究センター

TEL: 042-330-5222

<http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/>

印刷 株式会社 美巧社 東京支社

〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-35-4 グローリア駒込 2F

TEL: 03-6912-2255

ISSN 2432-437X